

サツマイモを生産されている組合員の皆様へ

かとり農業協同組合

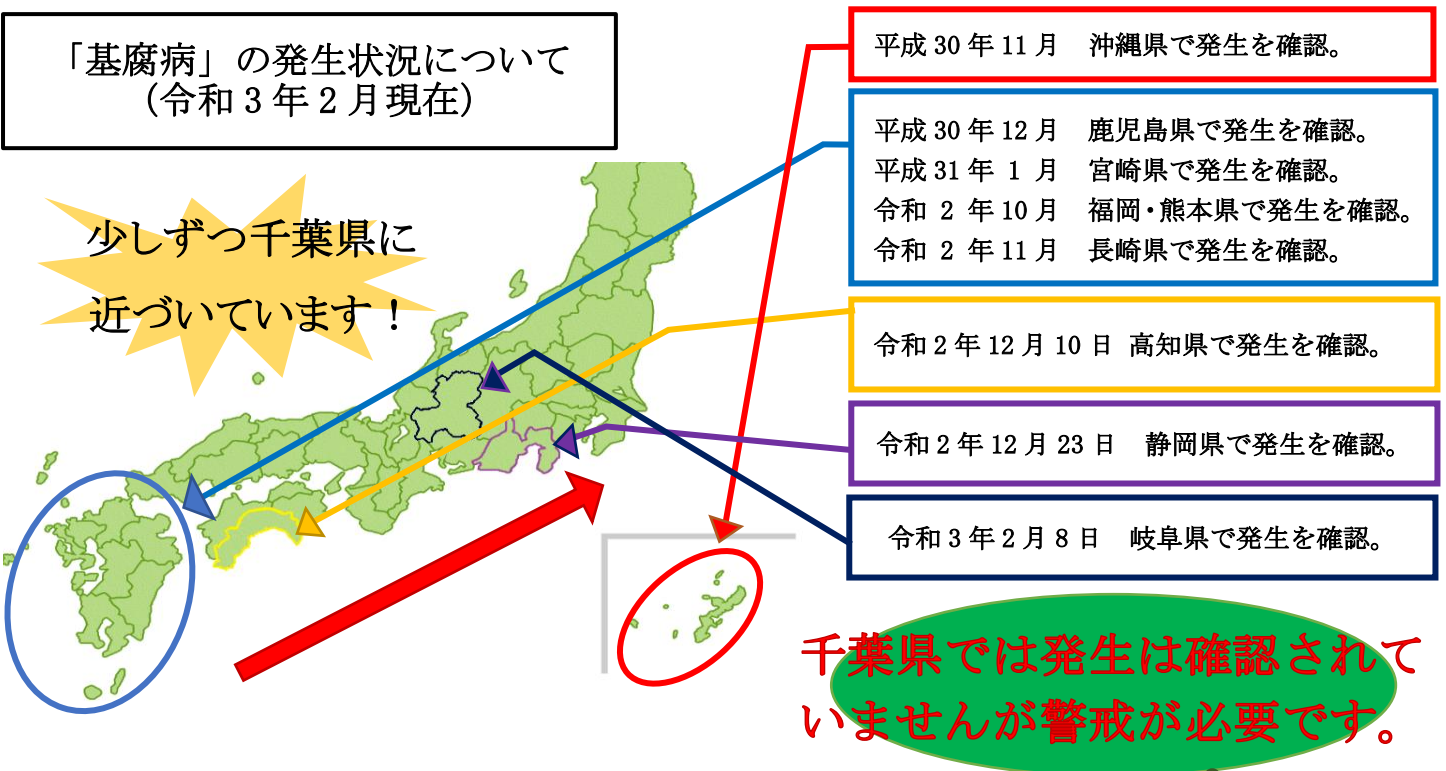
営農生活課

『サツマイモ^{もとぐされびょう}基腐病』の発生に警戒してください

『サツマイモ基腐病』が、沖縄・九州地方だけでなく令和2年12月には四国・東海地方でも発生が確認され、令和3年2月には岐阜県で貯蔵中のサツマイモに発生が確認されました。

鹿児島県では、県全体のサツマイモ作付面積の半分で基腐病の被害が確認され、収量も約3割の減収が確認されており、圃場によってはまったく収穫できなくなっている状況です。

もし、JAかとり管内に基腐病に感染している種イモや苗を持ち込んでしまうと、サツマイモ産地として甚大な被害が予想されますので、発生地域からの種イモや苗の購入を控えて下さい。



『サツマイモ基腐病』の生態と伝染経路について

- ・病原菌：糸状菌（ディアポルテ属）
- ・生育温度：15～35℃（適温 28～30℃）
- ・寄主植物：ヒルガオ科植物（主にサツマイモ）
- ・伝染経路：①感染苗（種イモ・切苗）による苗伝染
②発病した茎葉からの接触伝染
③暴風雨による泥はね又は溜まった水で孢子が移動して拡散する孢子伝染
④発病株の残渣による土壌伝染

『サツマイモ基腐病』の特徴について

- ・ 苗の基部が黒色に変色し、黒変した部分には多数の柄子殻が形成される。地上部は、葉が黄色や紫色に変色して萎れ、症状が進むと枯れてしまう。発病株のイモはなり首側から腐敗していることが多い。(図2・図3)
- ・ 地上部の症状はつる割病に似ているため、判別が難しい。



図1 基腐病発生圃場の様子



図2 発病株の株元



図3 塊根腐敗(品種:べにはるか)なり首側からの腐敗

発生させないための対策

- ① 他産地の種イモや苗を購入しない。
- ② 種イモを使用する場合は、使用前に必ず腐敗や病斑、傷など無いかを確認し、あれば直ちに使用を控える。
- ③ 苗の消毒(ベンレート水和剤、ベンレートT水和剤20)の徹底。
※当日調整した薬液を使用し、薬液は複数日に渡って使用せず使用日ごとに更新を行う。
- ④ 土壌消毒(ドロクロール、バスアミド微粒剤)の徹底。
- ⑤ 排水対策を十分に行う。
※降雨で溜まった水等により病害の感染拡大が助長されるため、圃場の排水性を向上させる。
- ⑥ 苗床や本圃で発生を確認した場合は速やかに抜取り、圃場外に持ち出す。

基腐病登録農薬一覧

農薬名	使用時期	希釈倍数	10a 当り散布液量
ベンレート水和剤	苗消毒 (30分間苗基部浸漬)	500~1000倍	—
ベンレートT水和剤		200倍	—
Zボルドー	発病株抜き取り後 周辺株への予防散布 (圃場散布)	500倍	100~300ℓ
ジーファイン水和剤		1000倍	200~300ℓ

苗床や本圃でつるの基部が黒変するなど、疑わしい症状の株を発見したら、JAかとり各経済センターまでご一報をお願い致します。

※本資料及び図1・図2は、農研機構生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(01020C)令和元年度版「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」より作成しています。

※図3は、静岡県病害虫防除所が12月23日に発表した「令和2年度発生予察情報特殊報第4号 サツマイモ基腐病」から引用。